

1. 河川の安全性向上と排水対策

(1) 海蔵川の安全性向上

①海蔵川の河川断面の確保と環境美化

【現状と課題】

- λ 地区の中心を東西に流れる海蔵川は、地区のシンボルとなっている半面、洪水や水難事故などの危険もはらんでおり、それらに備えた安全性の向上が課題となっています。
- λ 末広橋付近では河川内に雑木が繁茂しており、大雨が降り上流から流木が流されるなどして自然のダムとなって地区内で洪水が起きる危険性があります。
- λ また、上流部の宅地化が進んでいるため、ゲリラ豪雨で一旦水として急激に水位が上がることもあるため、それらに対する十分な対策を講じることも課題となっています。
- λ 一方で、河川内の雑木は野鳥等の棲み家となっていることから、自然のまま残して欲しいという声もあり、河川における安全性と自然環境のバランスが課題となっています。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 海蔵川の清掃に積極的に参加し、河川敷の環境美化に取り組みます。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 海蔵川の安全性の確保については、県が大きな役割を担うこととなりますが、一方で、地域として積極的に美化活動に取り組むなど河川敷の景観・環境の整備を行政と協働して進めます。 ○ 地区内の子どもに対し、安全性を確保しながらも海蔵川の自然に親しめる機会として、水生生物・自然観察会等の企画・運営を行います。
行政・関係機関に働きかけること	○ 海蔵川については、河川としての安全性を最優先に考える必要があります。河川管理者である県など関係機関に対し、河川内に繁茂している雑木を早急に除去することで水害を未然に防ぐことを強く働きかけ、早急な対応を求めます。 ○ 県が実施した雑木に関する調査結果などを踏まえ、今後の海蔵川の対応方針について、県に意見交換会の開催を働きかけます。



雑木が繁茂する海蔵川末広橋上流



増水時の海蔵川末広橋下流左岸

②河川における水難事故の予防・対策

【現状と課題】

入 海蔵川では春ごろに水位が増すことから、しばしば水難事故が起きてしまいます。そのため、河川敷を親水空間として整備する際には安全性も十分に配慮することが求められます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 日頃から子どもをはじめとした河川敷の安全な利用に気を配り、必要に応じて注意や報告、通報を行います。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 救助用の浮付きロープや警告看板の適切な維持管理に努め水難事故の防止を図るとともに、地区市民に対して危険性を周知し注意を喚起します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 低水護岸において滑り止めを施すなど水難事故を未然に防ぐための整備を働きかけます。



救助用浮付きロープの設置活動



海蔵川低水護岸の救命用取っ手

③自然災害に備えた河川整備

【現状と課題】

入 いつ発生してもおかしくないといわれている東海・東南海・南海地震が発生した場合、津波と満潮が重なると、海蔵川の河口部で数m水位が上昇すると予測されており、そのような事態に備え堤防など河川構造物を強化するとともに、地区市民による水防活動等の対策を強化することが必要となっています。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 災害時の対応力を高めるため、地区の防災訓練に積極的に参加します。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 災害発生時、被害を最小限に留める‘減災’のための活動として、地区内で情報伝達や避難が速やかにできるよう、自主防災活動や水防活動に積極的に取り組みます。
行政・関係機関に働きかけること	○ 大規模な自然災害に備え、堤防など河川構造物の強化を関係機関に働きかけます。 ○ 桜並木を有する海蔵川の堤防について、樹木の根腐れによる堤防の強度低下が起きていないか調査の実施を働きかけます。 ○ 災害発生時あるいは河川の増水時に、海蔵川の河川敷利用者に対して避難誘導ができるよう、放送設備の設置を働きかけます。



増水時の海蔵川末広橋下流右岸



根ぐされが心配される桜並木

(2) 三滝新川[分派]の整備

【現状と課題】

- λ 河川管理者である県では、三滝川を流れる水の一部を海蔵川へ流すため三滝新川[分派]の整備を計画しています。現在、近鉄川原町駅付近連続立体交差化に併せて、三滝川に架かる近鉄の鉄橋の架け替え工事が進められていますが、完了後に三滝川の拡幅工事が行われ、その後に三滝新川[分派]の整備にかかる予定になっています。
- λ これまでの県の説明では、三滝新川[分派]の整備に伴い三滝川の水量の約40%が海蔵川に流入する計画になっています。今後、工事前の地元説明会において、整備後の洪水等に対する安全性が十分に確保されるよう、継続的に働きかけることが求められます。
- λ 三滝新川[分派]は、野田及び清水町の先人達の理解のもと、先祖伝来の土地を将来のまちづくりのために提供いただいたものですが、これまで三滝新川[分派]の整備が計画段階で長期にわたりそのままになっています。また、工事予定地は雑草が繁茂している状態が長く続いていることから、適切な維持管理並びに整備に伴う地区の水害からの安全性向上を重ねて訴えてきました。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 三滝新川[分派]の整備計画の策定に参画するとともに、整備によって地形的に分断される地区としての一体感を保ちつつ、地域が担うべき役割については、地区を挙げて取り組みます。
行政・関係機関に働きかけること	○ 三滝新川[分派]の整備を、本地区における総合的な河川・雨水排水対策の機会として捉え、地域が整備計画の策定に参画できるよう働きかけます。 ○ 三滝新川[分派]の整備に際しては、三滝川から流入する大量の水により本地区における水害の危険性が高まらないよう配慮するとともに、河川の連続性を考慮し、自然環境の保全や公園・広場の有効活用など河川敷の整備を働きかけます。 ○ 整備が開始されるまでの期間、草刈りなど工事予定地の適正な維持管理を働きかけます。



三滝新川[分派] から海蔵川への合流



三滝川からの三滝新川[分派] 分岐

(3) 地区内の雨水排水対策の推進

【現状と課題】

- λ 地区内には、雨水排水が十分に整っていないところがあることから、安心して暮らし続けられるようにするために、これらを改善することが課題となっています。
- λ 小学校の南側を流れ、海蔵川に流れ込む堀川は、菖蒲園付近にある3つの水門で流量をコントロールしていますが、最も海蔵橋に近い水門が小さいため、水量が増えた場合にボトルネック状になっています。また、これらの水門の開閉によっては、増水した堀川に行き場のない多量の水があふれてしまうことが心配され、時間帯によっては通学途中の児童の安全にも関わります。また、上流部の宅地開発により堀川への流量は増加傾向にあることから、三滝新川[分派]の整備に合わせ堀川を整備することが求められます。
- λ 野田・清水町は、三滝川と海蔵川に挟まれ、いわば「輪中」に近い状態になっています。野田排水機場の能力も不足し雨水排水機能が十分でないため、1時間当たり30mm前後の雨が降ると歩道でも膝くらいまで冠水してしまうことから、今後の改善が課題となっています。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 各自治会で定期的に行っている排水溝の清掃に積極的に参加します。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 堀川に隣接している万古広場については、水害時に浸水する恐れもあることから、安全性を考慮し必要に応じて、避難場所としての位置付けを検討します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 堀川から海蔵川に排水できずに内水氾濫を引き起こすことがないように、三滝新川[分派]の整備に合わせて堀川の排水機場の整備及び樋門の適切な整備・維持管理を働きかけ、地区内における総合的な排水力の向上を目指します。 ○ 近年のゲリラ豪雨に応じた野田排水機場の排水能力強化を関係機関に働きかけます。



堀川流末の三ツ谷樋門



増水時に三滝川新川へ排水する野田川排水機場

